

「フクロウのペリット」

北軽井沢にはフクロウが「大勢」います。夜になると鳴き声を聞かないことはほとんどないほどです。日本のフクロウは「ホーホー」とは鳴きません。「ホーホー、ゴロスケホッホ」と鳴きます。

フクロウの鳴き声



(楽譜作成 ; C. Tanaka)

フクロウは生態系の食物連鎖の頂点にたつ猛禽類です。エサは主として森に住むネズミ、小型の野鳥類です。毎年のようにフクロウの鳴き声が聞こえるということは、どこかで営巣していて、餌になる小動物が豊富にいるという証拠でもあります。フクロウが何を食べているのかを調べるには、森で「ペリット」を探すのが一番です。



上の写真は、かなり育ったフクロウのヒナが、ネズミ1匹を丸飲みに行っているところです。頭からしっぽまで、一気に飲み込んでしまいます。これは成鳥も同じです。骨も獣毛も全部飲んでしまうので、消化できないものは、定期的にまとめて口から吐き出します。その吐き出された小さな塊が「ペリット」です。このような習慣は、フクロウなどの猛禽類だけでなく、実はけっこういろいろな鳥類が見せる行動です。

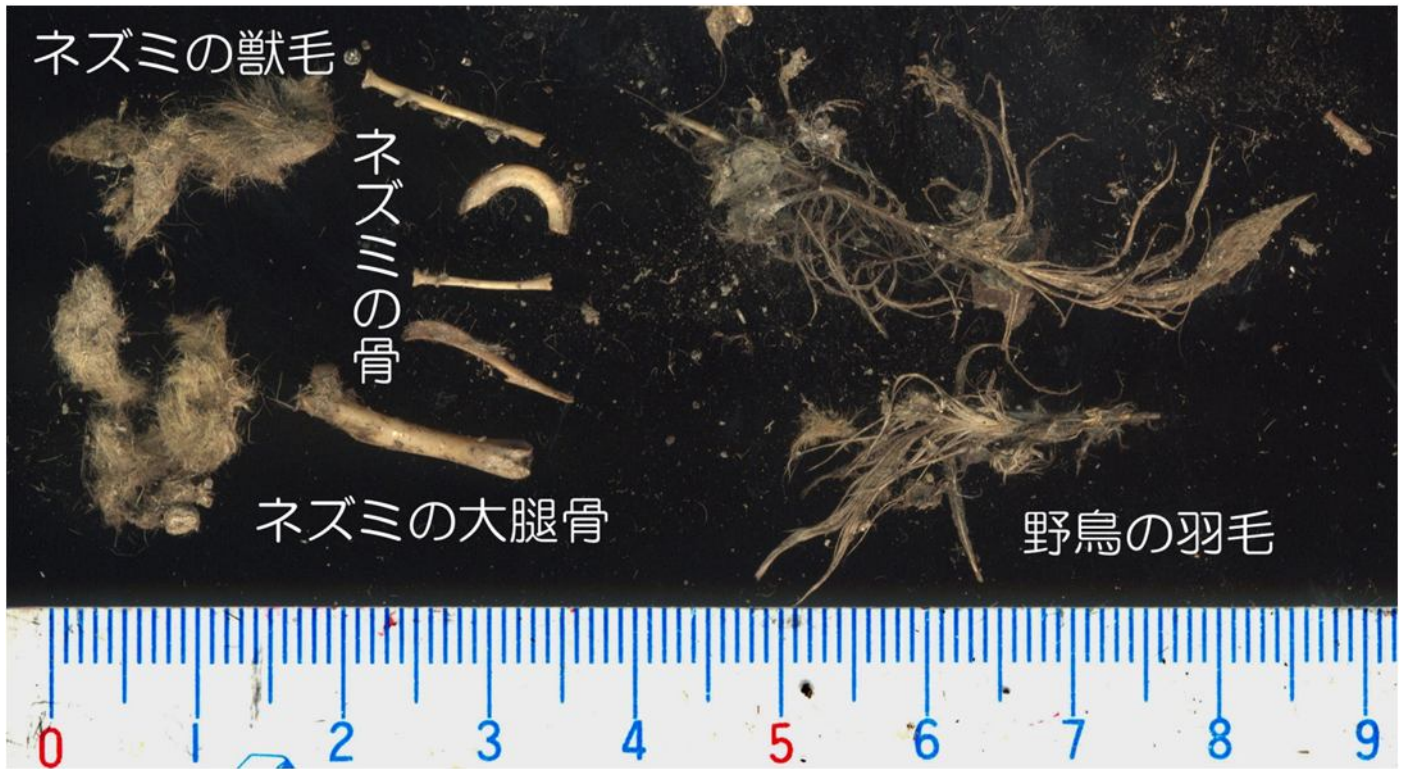
ふくろうがよくとまっている木の下や、フクロウ用の巣箱の下には、このペリットがよく落ちています。このペリットを分解すると、フクロウが何を食べているか、調べることができるのです。



「フクロウのペリット」（北軽井沢の森で採取・大きいほうが約3cm）



「ペリット1個を分解したところ」



写真を見ると、ネズミの獣毛が圧倒的に多く、それにネズミの骨、野鳥の羽毛などが含まれていることがわかります。フクロウが実際に餌を食べるところは、なかなか観察できませんが、この方法ならフクロウの食生活を、簡単に知ることができます。ただし、ペリットにはネズミが持っていた病原菌が含まれることがあるので、子どもに分解させるには、事前の殺菌や消毒が必要です。



「フクロウの巣箱内部」 小さなヒナのそばに、ヒナよりも大きい餌の野鳥（ヤマガラ）が運び込まれています。野鳥は夜間に「ねぐら」を襲われたものです。（巣箱は2009年に田中が設置）
（お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋）